

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
麻生建築&デザイン専門学校	平成9年11月26日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	理事長 麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	クリエイティブデザイン学科 (プロダクトデザイン専攻)	平成22年文部科学省 告示第152号	—																			
学科の目的	日用品、家電、自動車などの製品に関する材料、造形、色彩の知識を習得し、機能的で実用性のあるデザインの計画、構想から具現化までの工程を学習する。また、3次元CAD利用技術者試験の取得を目指しながらハイエンドの3次元CADを体得することによりデジタルエンジニアの分野で活躍できる専門技術者を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1740	420	1560	—	—	—																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人の内数	29人	0人	3人の内数	9人の内数	12人の内数																		
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価、3分の2以上の出席が必要																		
長期休み	■夏季: 8月12日～9月6日 ■冬季: 12月25日～1月4日 ■春季: 3月8日～4月5日			卒業・進級条件	単位を取得していること 卒業基準検定を取得している 学年の出席率が90%以上 学生としてふさわしい生活態度																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各種検定対策補講、数学ゼミ(希望者)			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 家具設計職、機械設計職			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年4月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3次元CAD利用技術者準1級</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>3次元CAD利用技術者3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>カラーデザイン検定</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	3次元CAD利用技術者準1級	③	5人	2人	3次元CAD利用技術者3級	③	12人	6人	カラーデザイン検定	③	11人	10人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																		
	3次元CAD利用技術者準1級	③	5人		2人																		
	3次元CAD利用技術者3級	③	12人		6人																		
カラーデザイン検定	③	11人	10人																				
■卒業者数 13 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																				
■その他			■自由記述欄 ・Project of the year 2021 ダッソー・システムズ株式会社主催 3DEXPERIENCE部門 1位、3位獲得																				
(令和3年度卒業生に関する令和4年4月1日時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和3年5月1日時点において、在学者29名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者27名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康問題など			中退率	6.9%																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・甚大な自然災害が発生した際、被災の状況に応じて校納金、入学金を減免する。			■専門実践教育訓練給付: 非給付対象(※令和4年4月1日より給付対象) 前年度の給付実績者数: 0人																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	<a href="https://asojuku.ac.jp/aadc/product/">https://asojuku.ac.jp/aadc/product/</a>																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためお客様アンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	③
元木 昭平	ウームデザインオフィス 代表	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	③
合瀬 理栄	国際カラーデザイン協会 九州支部 支部長	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	①
原 将史	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行補佐	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	
稲吉 貴博	麻生建築&デザイン専門学校 副主任	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期) 年2回 7月、12

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月16日 15:40～17:00

第2回 令和3年12月10日 15:40～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コロナ禍においてオンラインが主流であった中、業界においてオンラインで対応可能な範囲が明確となり、事業所の縮小や自社内での開発が加速しているため、率先して取り組める学生のニーズが高まっている。委員より、今後は自身で目的や内容を理解し乗り越える強い人間力がより求められるため、カリキュラム内でも自ら考えて行動できる力を育成する必要がある、との意見をいただいた。

各教科の課題提出の場面や学校生活を通して、報告・連絡・相談を怠らないよう指導しつつ、卒業制作や進級制作において意識して各自課題を持って取り組むよう促している。

また、昨年度から造形ゼミやCATIAゼミを実施することで、新しく1年次からスケッチ～モックアップ・デジタルモックアップと経験させており、本取組みは、高く評価いただいた。DesignConceptの導入により、CATIAではできない機能(シート、家具など革や布製品に特化した布張り部分の2D展開)を学生が習得できる点も非常に意義があった。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業からの要請等を十分に活かすために企業からのヒアリングやアンケートを行い、その結果を踏まえながらビジュアルデザイン分野に関する職業に必要な4つの分野(エディトリアル・Web・イラストレーション・デジタルフォト)の技術修得に関して、企業との連携により業界でのトレンドなどを加味した極めて実務に近い課題演習を行うことで学生のスキル向上を目指す。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・企業担当者が実務にて活用した素材や企画などを、演習にて使用。  
担当者が実際担当した顧客の依頼案件に対し、どのように考え、計画し、制作したかのプロセスを示し、実際に使用された素材を学生各自が再構成していく演習を設けている。また、合わせて担当者と学生の直接のアプローチなど適時実施している。
- ・演習をより実務に近づける  
課題への取り組みの現実味の向上を目標とし、学生に「学校の課題だから」ではなく、「仕事としての約束」として取り組む姿勢を意識させる。
- ・評価は、事前に設定した評価基準に基づき、連携企業の講師が課題の完成度を評価する。

### (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
プロダクトデザイン 実習 I A・B	プロダクトデザインの基本的概念を理解する。プロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。	ウームデザインオフィス

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

### (2) 研修等の実績

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・研修名「DesignConcept研修」(連携企業等:レクタラジャパン株式会社)  
期間:令和3年4月8日 ※オンライン 対象:専任教員  
内容:導入メリットと導入することによる可能性、家具業界のDesignConceptの状況、ソフトウェア研修
- ・研修名「VR研究会」(連携企業等:VR研究会/参画企業51社)  
期間:令和3年4月27日 ※オンライン 対象:専任教員  
内容:最新のVR動向調査  
①VRの動向と5Gの活用/デル・テクノロジーズ②ニューノーマルとしてのVR/奈良先端科学技術大学院大学

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・研修名「個別対応力強化研修」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)  
期間:令和3年8月18日、令和4年2月16日、 対象(参加者):専任教員  
内容:講義+個人ワーク+グループワーク

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・研修名「DesignConceptバージョンアップ研修」(連携企業等:レクタラジャパン株式会社)  
期間:令和4年日(未定) ※オンライン 対象:専任教員  
内容:ソフトウェアV5へのバージョンアップによるトレーニング研修

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・研修名「ルーブリック評価と能動的な継続学習」(連携企業等:デジタルハリウッド株式会社)  
期間:令和4年9月1日 ※オンライン 対象(参加者):専任教員  
内容:講義
- ・研修名「コーチング実践～多欠席学生対応編～」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)  
期間:令和4年9月7日 ※オンライン 対象(参加者):専任教員  
内容:講義+個人ワーク+グループワーク ※ワークがメイン

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育環境について、学校全体では学生数増加が見られ、教育環境の質の低下にならないよう努めるよう意見をいただいた。クリエイティブデザイン学科プロダクトデザイン専攻においては大きく人数が変動するには至っていないものの、前年度に導入したVR技術環境や3次元CADおよび3Dプリンター制作環境などを他学科にも活用していただくようにし、学校全体の制作環境の充実へ貢献することができている。建築分野の学生とプロダクトデザイン専攻の学生が技術的な交流を持ち相互により学習機会を創出できた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
尾崎 由美子	建築工学科 在校生 保護者	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	保護者
玉ノ井 健人	令和3年度 建築工学科 卒業生	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	卒業生
市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	高等学校
小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 民生委員	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	地域住民
元木 昭平	ウムデザインオフィス 代表	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	有識者
井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	有識者
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	有識者
宮本 清美	株式会社エイジェック 課員	令和4年4月1日～令和5年 3月31日(1年)	企業
和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	企業
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 支社長	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	企業
中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ 設計関連センター センター長	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	企業
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	企業
板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	企業
松田 淳司	ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 企画デザイン部 部長	令和3年4月1日～令和5年 3月31日(2年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aadc/2021/hyoka.pdf>

公表時期: 令和4年5月18日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、歴史、教育目標、ASOの考え方
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭・部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、学生寮、就職サポート、留学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、終始計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧)

URL: <https://asojuku.ac.jp>、<https://asojuku.ac.jp/aadc>

授業科目等の概要

(工業専門課程 クリエイティブデザイン学科プロダクトデザイン専攻) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		色彩学	色彩の基本的知識の習得と、配色知識および、色彩検定3級取得を目標とする。	1前	30	2	○			○			○	
2	○		G C B I	グローバルシティズンの育成をめざし、感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○		○		
3	○		G C B II	グローバルシティズンの育成をめざし、ビジョンと志をもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○		○		
4	○		ビジネスマナー A	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(立ち居振る舞い・敬語・ビジネス文書)	1前	30	2	○			○		○		
5	○		ビジネスマナー B	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(交際業務・来客対応・電話対応)	1後	30	2	○			○		○		
6	○		卒業制作B	卒業制作のためのデザインプロセスを学習しパネル制作及びモデル制作を行う。	2後	60	4		○		○		○		
7	○		就職実務 I	就職活動においての実践的能力を身につける。就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。	1後	30	2	○			○		○		
8	○		就職実務 II A	就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。社会人としての意識マナーをしっかりと身につける。	2前	30	2	○			○		○		
9	○		就職実務 II B	就職活動のスタートにあたり、準備を行い、早目の活動開始を促す。社会人としての意識マナーをしっかりと身につける。	2後	30	2	○			○		○		
10	○		CAD A	2次元CADの基本的概念を理解すると共に、CAD利用技術者試験2級合格を目指す。	1前	60	4		○		○			○	
11	○		CAD B	2次元CAD (AutoCAD) の基本操作を習得し、機械製図の作図技術を習得する。	1後	30	2		○		○			○	

(工業専門課程 クリエイティブデザイン学科プロダクトデザイン専攻) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			C A T I A I A	企業との提携により作成しているCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について基礎から学習する。	1前	60	4	○		○			○	
13	○			C A T I A I B	企業との提携により作成しているCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について基礎から学習する。	1前	60	4	○		○			○	
14	○			3DCAD I A	3次元CADソフトウェアの基礎知識及び操作方法の習得を目的とする。	1後	60	4	○		○			○	
15	○			3DCAD I B	3次元CADソフトウェアの基礎知識及び操作方法の習得を目的とする。	1後	30	2	○		○			○	
16	○			Design Concept I A	ソフトの特徴である、布や革を張り合わせる面など通常の3次元CADにはない基礎機能を学習する。	1前	30	2	○		○		○		
17	○			Design Concept I B	ソフトの特徴である、布や革を張り合わせる面など通常の3次元CADにはない基礎機能を学習する。実際にスツール作成するなど実務的に学習	1後	30	2	○		○		○		
18	○			3DCAD検定対策A	3DCADを扱う上で必要な基礎知識や周辺機器知識概念の習得を目的としている。また、3次元CAD利用技術者試験2級合格を目指す。	1前	30	2	○		○			○	
19			○	3DCAD検定対策B(選択)	3DCADを扱う上で必要な基礎知識や周辺機器知識概念の習得を目的としている。また、3次元CAD利用技術者試験2級及び準1級(任意)の合格を目指す。	1後	30	2	○		○			○	
20	○			表現技法 I A	透視スケッチ技法及によりイメージの具現化ができる。基本的な立体形状を正確に造形する技術を身に付ける。	1前	60	4	○		○			○	
21	○			表現技法 I B	透視スケッチ技法及によりイメージの具現化ができる。基本的な立体形状を正確に造形する技術を身に付ける。	1後	60	4	○		○			○	
22	○			機械製図A	製図総則 (JIS Z 8310-1984) 及び機械製図の諸規格について十分理解する。	1前	30	2	○		○		○		

(工業専門課程 クリエイティブデザイン学科プロダクトデザイン専攻) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
23	○		機械製図B	製図総則 (JIS Z 8310-1984) 及び機械製図の諸規格にしたがって、正しい図面作成技術を身に着ける。	1後	30	2	○			○		○		
24	○		プロダクトデザイン実習 I A	プロダクトデザインの基本的概念を理解するプロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。	1前	60	4	○			○			○ ○	
25	○		プロダクトデザイン実習 I B	プロダクトデザインの基本的概念を理解するプロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。	1後	60	4	○			○			○ ○	
26	○		Photoshop/ Illustrator I A	Illustratorの基本操作を習得。作品パネルの制作や、就職面接用のポートフォリオ制作に活用できるようになる。Illustratorクリエイター能力認定試験のスタンダード合格レベルのスキルを身につける。	1前	30	2	○			○		○		
27	○		Photoshop/ Illustrator I B	Photoshopの基本操作を習得。作品パネルの制作や、就職面接用のポートフォリオ制作に活用できるようになる。Photoshopクリエイター能力認定試験のスタンダード合格レベルのスキルを身につける。	1後	30	2	○			○		○		
28		○	造形ゼミ (選択)	造形スキルの向上を目的とし課題としてモックアップを作成する。スチレンボードなど用いて作品制作技術を学習する。	1後	60	4	○			○		○		
29		○	3 DCAD ゼミ (選択)	3次元CADを用いた作品制作を通してCADスキルの向上及び制作技術を学習する。	1前	30	2	○			○		○		
30	○		C A T I A II A	企業提携によるCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について学習し、CATIA技術者認定資格を目標とする。	2前	30	2	○			○		○		
31	○		C A T I A II B	企業提携によるCATIA技術者育成カリキュラムに沿ったCATIAの操作について基礎から学習し、CATIA技術者認定資格を目標とする。	2後	30	2	○			○		○		
32	○		Design Concept II	1年次学習の応用として、スタイル機能を用いて自由曲線を用いたソファデザインを学習する。また、自分でデザインした作図を取り込みオリジナルソファデザインを行う。	2前	30	2	○			○		○		
33	○		C A D / C A M	C A Mの基本操作を習得し3 DCADで作成したデータを用いて作品制作を行う。	2前	60	4	○			○		○		



(工業専門課程 クリエイティブデザイン学科プロダクトデザイン専攻) 令和4年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
34	○			プロダクトデザイン概論A	プロダクトデザインの専門知識を深め、プロダクトデザイナーに必要な技術、人間性を身につける。	2前	30	2	○			○		○		
35	○			プロダクトデザイン概論B	プロダクトデザインの専門知識を深め、プロダクトデザイナーに必要な技術、人間性を身につける。	2後	30	2	○			○		○		
36	○			3次元CAD II	3次元CADソフトウェアの応用操作を学ぶ。主にサーフェスモデリングの方法、トップダウン設計手法について学習する。	2後	60	4		○		○			○	
37			○	3DCAD 検定対策B (選択)	3次元CADソフトウェアの応用操作を学ぶ。主にサーフェスモデリングの方法、トップダウン設計手法について学習する。	2前	60	4		○		○			○	
38	○			機械設計 A	機械設計及び機械製図の基礎的な知識を身につける。	2前	30	2	○			○		○		
39	○			機械設計 B	機械設計及び機械製図の基礎的な知識を身につけ機械製図が自ら描けるよう学習する。	2後	30	2	○			○		○		
40	○			Photoshop/ Illustrator II	アプリケーションの操作方法を身につけ、自分のアイデアを、より早く、正確に表現できる力を身につける。	2前	30	2		○		○		○		
41			○	Photoshop/ Illustrator III (選択)	アプリケーションの操作方法を身につけ、自分のアイデアを、より早く、正確に表現できる力を身につける。	2後	30	2		○		○		○		
42			○	グラフィックデザイン概論 (選択)	プロダクトデザイン以外のWEBデザインやDTPデザインやイラストといった、グラフィックデザインの基礎を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
43	○			機械工学A	ものづくりの基礎となる機械工学(材料力学・機械力学)の基礎を学習する。	2前	30	2	○			○		○		
44	○			機械工学B	ものづくりの基礎となる機械工学(流体力学・熱力学)の基礎を学習する。	2後	30	2	○			○		○		

(工業専門課程 クリエイティブデザイン学科プロダクトデザイン専攻) 令和4年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
45	○			プロダクトデザイン実習ⅡA	プロダクトデザインの一貫した過程を一つの作品にまとめる。卒業制作と連携し、個人別の課題に取り組む。	2前	90	6	○			○			○	○
46	○			プロダクトデザイン実習ⅡB	プロダクトデザインのプロセスを理解し、課題を通じて一通りのプロセスを体験する。プロダクトデザイナーに必要な技術、人間性を身につける。(納期、期限)	2後	90	6	○			○			○	○
47	○			表現技法ⅡA	自分の発想、考え方を、形に表現できる力を身につけ、ポートフォリオの素材となるような作品を作成する。	2前	30	2	○			○			○	
48	○			表現技法ⅡB	ものの正しい見方を学び、手書きを中心とした表現で自分のアイデアを、早く正確に表現できる力を身につける。	2後	30	2	○			○			○	
49	○			卒業制作A	卒業制作のためのデザインプロセスを学習しパネル制作及びモデル制作を行う。	2前	60	4	○			○		○		
合計							49科目			1980時間(132単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①最終学年の終了時において、履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格し、当該学年における単位数を取得していること。 ②出席率が当該学年の出席時間数の90%以上であること。 ③国土交通省が定めた規定の時間を満たした者 ④学生としてふさわしい生活態度であること。  上記基準を満たせない者は、他の成績科目、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週